



働く喜びを支える35年の取り組み

社会福祉法人清光会 ささゆり作業所

基本情報

- 所在地 泉佐野市
- 指定年月日 平成21年4月1日
- 利用者数 46名(R8.1.1現在)
- 職員数 16名(R8.1.1現在)
- 利用者の主たる障がい種別 知的障がい、精神障がい

■ 一般就労実績	R4	R5	R6
	0名	0名	1名



ささゆり作業所は、前身の授産施設時代から約35年、地場産業であるタオル加工に取り組んできました。工夫と実績を積み重ね、現在の生産活動収益は約3千万円、工賃は約4万円を實現しています。

名入りタオルのプリントから包装までワンストップで受託できる点が強みで、繁忙期の年賀タオルだけでなく、通年需要のあるホテル・民宿向けの販売を強化し、工賃向上や一般就労者の輩出につなげています。



(タオルへの印刷から、梱包まで)

工賃向上の取組み

1台の印刷機から始まった事業拡大

平成7年頃までは、タオルののし掛けや袋詰めなどの下請け作業が中心で、工賃も多くありませんでした。ある時、企業名入りタオルを見たことをきっかけに、「自分たちでもプリントができるのではないか」「利用者の仕事の幅を広げられるのではないか」と考え、印刷機を1台導入しました。その後、印刷機を扱える利用者の育成を進め、補助金の活用も行いながら台数を増やし、現在は7台をフル稼働させています。タオルプリントは生産活動収益の65%を占める主力事業となりました。

タオル業者にとっても、プリントから個包装までを一括で依頼できる点は、外注の手間やコストを減らせる魅力となりました。また、コロナ期の受注減や業界の高齢化・人手不足による廃業増加を背景に、実績ある事業所として口コミが広がり、新規顧客も増加しました。これにより売上は毎年着実に伸び、発注者には定期的に単価交渉にも応じてもらっています。繁忙期には、1日1万枚の印刷と4千枚の個包装を行うなど、一般就労に近い環境が整っています。利用者がこなせる作業の種類や量を増やす支援を行い、就労への自信につなげています。

工賃向上の取組み

閑散期対策:タオル販売事業への挑戦

主な受注の年始挨拶の名入りタオルの受注は、秋から年末にかけて集中します。それ以外の閑散期は、単価の低い内職などでしのいでいきましたが、名入りタオルのプリントが可能になった際に、「このノウハウを活かせば、通年で需要のある旅館やホテルへのタオル販売ができる!」と気づき、工賃向上のために名入りタオル販売の新事業部を、法人内で立ち上げました。

タオル事業部が白タオルを仕入れ、外部と同単価で作業所にプリント・梱包をしてもらい、タオルを販売します。立ち上げ当初は、仕入れ代などの経費が高み、苦戦しました。そこで、福祉事業所ならではの小ロット対応などを売りに、関西一円の旅館・ホテル・温泉などに営業努力を続けた結果、軌道に乗り、現在、タオル販売事業は、約150社と取引し、工賃向上に繋がりました。



(タオルへの印刷作業の様子)

重度障がい者支援の取組

飽きさせない、気を削がない



(重度障がいをお持ちの方々の作業の様子)

現在、B型事業所の重度障がいの利用者は10名で、タオル個包装の作業に取り組んでいます。

支援員は、ひとりひとりの「できる・できない」を見守りながら、タオルを折りたたむ作業に特化する、シール貼りに特化する、などの配置に気をかけています。

また、その人に合った手作りの補助具や、仕上がり見本などを作成し、作業のイメージを掴みやすくすることで、技能向上・効率化を図っています。併設の生活介護事業所の利用者も同様にタオル作業に取り組んでいます。

声かけなどのコミュニケーションについても、「飽きさせない、気を削がない」ことを一番に意識して、前向きに通所してもらえるように支援しています。

その結果として、10名の皆さんがそれぞれのペースで、年間200日以上、継続して通所されています。

ささゆり作業所では、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を目標として支援を行い、就労希望者も、重度障がい者もそれぞれのペースに応じて作業に取り組み、能力向上できるように支援を心がけています。約35年かけて信頼と実績を重ね、受注確保と工賃向上を達成してきました。

利用者からは「工賃で好きなものが買える!」、「自分たちのタオルを銭湯で見かけて嬉しい!」ご家族からも「こんなにたくさん工賃がもらえるようになった」と喜びの声が届いており、これをやりがいに、今後も工賃向上を目指し、地域に貢献していきたいと思えます。